

開講日	2014年秋期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	医学部研究棟11階講義室A・病院3階 大ホール
コーディネーター	名古屋市立大学大学院医学研究科・脳神経生理学 教授 飛田秀樹/名古屋市中央療育センター 医師 宮地泰士		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】 発達障害に対する理解、指導法の習得、事例研究、などが進み、勉強熱心な関係者が多い。最近では教育現場の教員や療育にたずさわる関係者の中には、発達障害の医学的知識を知りたい、薬の作用メカニズムを知りたい、脳の仕組みを知りたい、などの声も多くなってきた。本講座では、ADHDを中心に発達障害の医学/生物学的な知識を実験結果からの裏打ちから深め、今後の発達障害児の教育/療育の幅を広げられることを目指す。</p> <p>【期待される成果】 運動や行動の脳のしくみ、ADHDの診断から病気の医学的理解、環境要因の生物学的影響などについて学び、受講後のさらなる自己勉強がよりスムーズとなるとともに、実際の教育/療育現場での対応法の応用を考える手助けとなる。</p>
目標とする 資格	

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講義室	講師(所属)
脳のしくみと 病因を知る	1	神経の基礎から行動のしくみを学ぶ	脳は神経、神経膠細胞、希突起膠細胞から構成される。胎児期に基本が作られ、20歳頃までゆっくり成長している。神経系の発達と動物としての神経系の基本的な働きを学ぶ。	9月3日	講義室A	名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学 教授 飛田 秀樹
	2	情動の発達: ドパミン神経系から"ほめる"や"怒り"を知る	最適な行動を取るためには、情動がしっかりと発達する必要があります。情動とドパミン神経系について学び、"ほめる"ことの生物学的な意義、"怒り"について知ります。	9月10日	講義室A	名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学 教授 飛田 秀樹
	3	脳と環境物質の関連を知る	近年、有機リン系殺虫剤がADHDの有病率と関連すると米国の研究者が報告し、話題になりました。微量な化学物質の体内取り込みと発達障害に関する最新知見を学びます。	9月17日	講義室A	名古屋市立大学大学院医学研究科 環境保健学 教授 上島 通浩
	4	遺伝? それとも環境が大事?	ADHD関連遺伝子が分かってきました。一方、環境により行動や遺伝子発現が大きく変化することが証明されました。実験データを交え、教育(環境要因)の重要性を学びます。	9月24日	講義室A	名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学 教授 飛田 秀樹
ADHDの発見 から診断へ	5	ADHDの見極め: 自閉症など他の原因との違い	不注意、多動、衝動性はADHDに限らず他の発達障害や精神障害などが原因でも認められる行動特徴です。それぞれの違いや鑑別診断について学びます。	10月1日	講義室A	名古屋市立西部医療センター 小児科 医師 水野 賢史
	6	発達検査の解釈とその応用	今回は学齡児によく行われる発達検査の1つであるWISC-III、IVを中心に、発達検査の結果をどのように解釈し、実際の指導に活かすのかを学びます。	10月8日	病院3階 大ホール	名古屋第二赤十字病院 小児科 医師 永井 幸代
	7	ほめて育てる: 実践/実習編	"子どもをほめて育てる"ということが大切だと思っても、なかなか実践できないと悩む親や指導者は多いです。実習を通してそのコツやポイントを学びます。	10月15日	講義室A	名古屋市中央療育センター 医師 宮地 泰士
発達障害の 病気を 知る	8	ADHD薬を知る: 薬の効き方から副作用まで	ADHD治療で用いられる薬が、どのように作用するのかについて学びます。さらに、その副作用についての理解を深め、適切な服薬へのアドバイスを可能にすることが目標です。	10月22日	病院3階 大ホール	名古屋市あけぼの学園 医師 大橋 圭
	9	自閉症を知る: 画像によるADHDとの対比から	自閉症の中核症状である対人相互作用やコミュニケーションの障害の脳病態が、MRIなどの脳画像を用いた研究により分かってあります。ADHDでの不注意や衝動性の障害の脳病態と対比して学びます。	10月29日	講義室A	東京大学 精神医学 准教授 山末 英典(特別演者)
	10	大人のADHDを知る	ADHDは発育期の子供だけの問題ではありません。最近では、大人のADHDも注目されています。ライフステージ毎の発達と療育も意識してみましょう。	11月5日	講義室A	名古屋市立大学・医学研究科 精神・認知・行動医学 病院講師 山田 敦朗
	11	病気に併発する発達障害	先天的な疾患や産産期障害による疾患に併発する発達障害のケースもあります。病気の原因に応じた発達障害のベストな療育に向け、その病気自体について学びましょう。	11月12日	講義室A	名古屋市中央療育センター 所長 谷合 弘子
教育/療育の 実践へ	12	トータル環境を考える: 保護者との連携	ADHD児の治療には対応の方法などの環境調整が不可欠です。学校と家庭で子どもへの一貫した関わり方が可能になるためには、どのような連携が必要なのか考えます。	11月19日	講義室A	名古屋市発達障害者支援センター 医師 浅井 朋子
	13	社会的スキルトレーニング: 理論と実践	ソーシャルスキルトレーニングの考え方とそれが子どもにとって何故必要なのかについて学びます。	11月26日	講義室A	名古屋市立大学大学院人間文化研究科 教授 滝村 雅人
	14	より良い教育/療育へ向けた課題を知る	教育現場および行政サイドの立場から発達障害に関わった経験者からのお話を伺い、より良い将来の教育/療育に向けた現状とその課題を考えましょう。	12月3日	講義室A	名古屋市立中小田井小学校 校長 山口 純枝
	15	新たな教育/療育を考える: グループディスカッション	本講座のまとめを、ディスカッション形式で行います。生物学的な理解を深めたのち、どのように教育/療育に繋げることができるのでしょうか?	12月10日	講義室A	名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経生理学 教授 飛田 秀樹